

○総務財政常任委員会
(島根県海士町、松江市)

海士町では急速な人口減少と財政難に直面する中「自立促進プラン」に基づき、地域資源と人材を活用した持続可能なまちづくりを進めている。

中でも「大人の島留学」

や「親子島留学」は、都市部からの若者や親子を受け入れ、地域課題に向き合いながら、学びと働きの場を提供する制度であり、地域や学校との連携や移住促進、教育機会の格差是正にも寄与している。また「高校魅力化プロジェクト」では、地域と連携した探究学習を通じて、地域に誇りと関わりを持つ人材育成を図っている。さらに、公務員の副業を容認する「半官半X制度」や「副業協同組合」など、地域人材の多様な働き方を支援する制度も導入されており、自治体と民間が連携した先進的な取り組みとして高く評価できる。今後参考としながら政策提言などをしていきたい。

常任委員会派遣調査報告



海士町役場にて

松江市では、観光政策の財源多様化を目的に宿泊税条例を制定し、令和7年12月から施行予定としている。課税対象は1泊5000円以上の宿泊者で、一律200円を課税する。税収は観光資源の磨き上げや人材育成、公共交通整備などに活用される。制度設計では、事業者や市民との意見交換を重ね、パブリックコメントや説明会を実施しており、無許可施設への対応や税収の透明性なども議論され、鹿角市における観光振興や自主財源拡充の参考となる事例であった。

(湯瀬弘充)



松江市役所にて

(派遣委員)
湯瀬弘充 館花一仁
中山一男 丸岡孝文
松村託磨

○教育民生常任委員会
(岡山県奈義町、兵庫県加東市)

奈義町では、「子育て応援宣言のまち」として少子化対策を子育て世代の問題ではなく地域全体の課題と捉え、住民と共に支える体制を構築している。出産祝い金10万円や給食費・教材費の無償化、在宅育児支援金(月1万5000円)など、手厚い支援が特徴であり、町の一般会計予算規模約50億円のうち子育て・教育支援へ単独事業費約3



なぎチャイルドホームにて

億円を確保している。保健師や地域の愛育委員による新生児訪問を行っていきるほか、保育施設「なぎチャイルドホーム」や一時保育「すまいる」、自主保育「たけの子」など多様な保育形態も整備されている。さらに「子ども議会」の復活で子供の意見を聞く、小中学校の各学級へのALT配置による英語教育の充実など魅力ある教育が推進されていた。



加東市役所にて

に統合し、児童生徒の成長を一貫して見守る体制を整備を行っていた。当初は住民から大きな反発もあったが、小中一貫校へ整備後、不登校の児童数が整備前より減少するなど、成果も見られている。市教育委員会は3つの中学校区ごとに小中一貫校の設置を計画し、関係者との協議を重ねながら、時代に即した新たな教育の創造を目指している。

(浅石昌敏)

(派遣委員)
浅石昌敏 兎澤祐一
児玉悦朗 保田直美
赤坂 勲 奈良明日香